



RDX クイックスタートガイド

Green-GO RDX

クイックスタートガイド

Product description (商品説明)

Green-GO無線インタフェースは、D-SUB-9 コネクタを介して無線デバイスをGreen-GOネットワークに接続できます。

Features (特徴)

- トランシーバー (Walkie-Talkie) をGreen-GOネットワーク化
- トランシーバー リモート操作のプッシュトーク機能
- 1つの無線チャンネルがGreen-GOネットワークの1つのグループに対応
- 電源はイーサネットポートからのPoE (802.3af-2003規格) 給電

Setup menu navigation (セットアップメニューナビゲーション)

画面左側の2つのボタンを同時に押すと、RDX セットアップメニューが開きます。メニューに入ると、左上のボタンがセレクトおよび確認ボタンとして機能します。左下のボタンを押すと現在選択されているオプションまたはメニューから1ステップ戻ります。

右側にある2つのボタンを使用してメニューをスクロールできます。編集可能なパラメーターを選択した後は、これら右側のボタンでパラメーター値を増減させることができます。

Setup menu overview (セットアップメニュー概要)

セットアップメニューには、RDX のさまざまな設定があります。メニューセクションとそれに属するオプションは以下です。

→ Modifying the program audio parameters (プログラムオーディオパラメーターの変更)

Program In (プログラム イン)

- Src** → プログラムオーディオソースを選択します。
プログラムオーディオソースとして選択できるソースリスト (Stage, Sound, Light, Video, etc) が開きます。
- Vol** → オーディオのボリュームを設定します。範囲は 12dB ~ -36dB の間です。オーディオをミュートするには、スクロールして -36dB 超えると MUTE 値が表示されます。
- Dim** → 通信中はオーディオを減衰します。減衰範囲は 0dB ~ -12dB ~ -24dB まで変更できます。スクロールして -24dB 超えると MUTE オプションが表示されます。

→ Assigning groups and users to channels (グループとユーザーのチャンネルアサイン)

Channel Assignment (チャンネルアサインメント)

- 1-32** → ユーザーまたはグループをアサインする 32 のチャンネルからの1つを選択します。
- ID** → チャンネルにアサインされているユーザーまたはグループの ID
 - Group** → グループをチャンネルにアサイン
 - User** → ユーザーをチャンネルにアサイン
 - None** → アサイン済みのグループ/ユーザーをチャンネルから削除

Set Label → チャンネルに別のラベルを設定

Group → グループラベルを選択

User → ユーザーラベルを選択

Clear → ラベルをクリア

Talk → トーク(Talk)ボタンの動作を設定します

Latch / Momentary → 短押し：ラッチ / 長押し：モーメンタリー

Latch → トークボタンを押すと会話が有効になり、もう一度押すと無効になります

Momentary → トークボタンを押しているあいだ、会話は有効です

Disabled → このチャンネルのトークを無効にします

Listen On / Listen Off

Listen On → チャンネルのリッスンを有効にします

Listen Off → ディスプレイにはトークを示しますが、音声はオフになります

Volume → チャンネルのボリュームを設定します。範囲は 12dB ~ -36dB の間です。オーディオをミュートするには、スクロールして -36dB 超えると MUTE 値が表示されます。

High Priority / Normal Priority / Low Priority → チャンネルのプライオリティを設定します。オプションメニューの Priority も参照してください。

Call Send Enabled / Disabled → チャンネルからコール(Call)を送信する機能を有効または無効にします

Call Receive Enabled / Disabled → チャンネルでコール(Call)を受信する機能を有効または無効にします

Enhanced / Normal Bandwidth → チャンネルの帯域幅を設定します

An → アナウンス(Announce)チャンネルとして扱うグループをアサインします

Em → 緊急用(Emergency)チャンネルとして扱うグループをアサインします

AutoTalk (オート トーク)

Ch1-32 / Off

→ Modifying the audio settings (オーディオ 設定の変更)

Audio Settings (オーディオ セッティング)

Volume → RDX のボリュームを設定します。

ボリューム範囲は -10dB ~ -60dB の間で変更できます。

AutoGain → 歪みを避けるためダイナミックアンプを設定します。

設定は **Slow – Med – Fast – Off** です。オートゲイン(AutoGain)がオフの場合、最大ゲイン設定は無効になります。

MaxG → 入力信号の最大(max)ゲインを設定します。範囲は 30 ~ 70dB です。

Thld → 送信に要求される入力信号のスレッシュホールドレベルを設定します。

範囲は-40 ~ -20dB です。

→ General options (オプション)

Options (オプション)

Active Time → 最後のオーディオアクティビティの後にチャンネルがアクティブになるまでの時間を設定します。範囲は 0.5 ~ 45.0 秒です。

Isolate On/Off → チャンネルでトークを有効にしたときに他のすべてのチャンネルをミュートするかどうかを設定します。

Buzzer On/Off → アラートを受信したときに鳴るブザーを有効/無効にします。

Tone → Alert、Cue、Connection Status、Battery status、に使用されるオーディオ信号のレベルを設定します。範囲は MAX、-1dB ~ -48dB、MUTE です。

No Listen on Talk / Listen on Talk → ミュートされているチャンネルに有効なトークが発生した時に、一時的にミュートの解除を許すかどうかを設定します。

Answer Enabled / No Answer → コールへのアンサー機能を有効/無効にします。

Popup → ポップアップ時の動作を選択します。

Popup All → すべてのポップアップを表示します。

Popup Cue + Direct → キュー信号とダイレクトトークのみのポップアップします。

Popup Cue → キュー信号のみポップアップします。

No Popup → ポップアップ無しです。

Priority Dim → プライオリティの高いチャンネルがアクティブになった場合、プライオリティが低いチャンネルに対する音量減衰レベルを設定します。

範囲 : 0dB ~ -24db、MUTE。

Direct Priority → ダイレクトチャンネルのプライオリティを設定します。

Low / Normal / High

Direct Volume → ダイレクトチャンネルのボリュームを設定します。

範囲 : 12db ~ -36dB、MUTE

AutoTalk Ch1-32 / Off

→ User selection (ユーザー セクション)

Set User → RDX デバイスの指定ユーザーの選択

StageManager

FOH

Monitor

Director

etc.

→ Configuration cloning (コンフィギュレーション クローン)

Clone Config → ネットワークから設定ファイルのクローンを作成します。

Configuration File A → 設定ファイル A をロードします。

Configuration File B → 設定ファイル B をロードします。

他。

Factory Default → 工場出荷時のデフォルト設定ファイルをロードします。

→ Connection configuration (接続設定)

Connection → 使用する接続のタイプを設定します。

Local Connection → ローカル接続を使用する。

Remote Connection → リモート接続を使用する。

Password → パスワードを設定する。

Generate password → 新規パスワードを生成する。

Remote Port → 使用するリモートポートを設定します。

Remote IP → 使用するリモート IP を設定します。

Backup

OFF / 0.0.0.1

SndBuf

Default / Small / Normal / Large

RecvBuf

Auto / Small / Normal / Large

Save → 現在のリモート接続設定を保存します。

Latency Connection → レイテンシー接続を使用します。

Audio

Normal / Compressed (ノーマル / 圧縮)

FEC → 使用する前方誤り訂正(Forward Error Correction)タイプの設定。

--- / On / Compressed

Latency

Save → 現在のレイテンシー接続の設定を保存します。

→ Network settings (ネットワーク セッティング)

Dynamic

- ON** → ダイナミック IP を使用します。
- OFF** → 固定 IP を使用します。
- IP address** → 使用する IP アドレスを設定します。
- Netmask** → 使用するネットマスクを設定します。
- Gateway** → 使用するゲートウェイを設定します。
- Save** → 現在のネットワーク設定を保存します。

→ Device options (デバイス オプション)

Device Options (デバイス オプション)

- Flip** → 上下反転(フリップ) させる、ディスプレイの一部または全体を選択します。
 - Both** → メニューとメイン画面をフリップします。
 - Menu** → セットアップメニューのみフリップします。
 - Main** → メイン画面のみフリップします。
 - Off** → 何もフリップしません。
- Scr Saver** →最後の操作からディスプレイが切れるまでの時間を設定します。
範囲 : 常にオン - 10 秒 - 30 秒 - 1 分 - 10 分 - 30 分 - 1 時間 - 2 時間
(Always On – 10 sec – 30 sec – 1 min – 10 min – 30 min – 1 hour – 2 hours)
- Scr bright** → RDX 画面の明るさを設定します。範囲 : 0 - 15
- LED bright** → LED の明るさを設定します。
範囲 : Off - 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - Max

→ Device information (デバイス インフォメーション)

Info → RDX に関する一般的な情報を表示します。

SN: xxx → RDX のシリアル番号

TD Radio 4a49	→ ファームウェア情報
TD Radio 4a49	→ ファームウェア バージョン
Aug 2 2017	→ ファームウェア リリース日付
17:18:57	→ ファームウェア リリース時刻

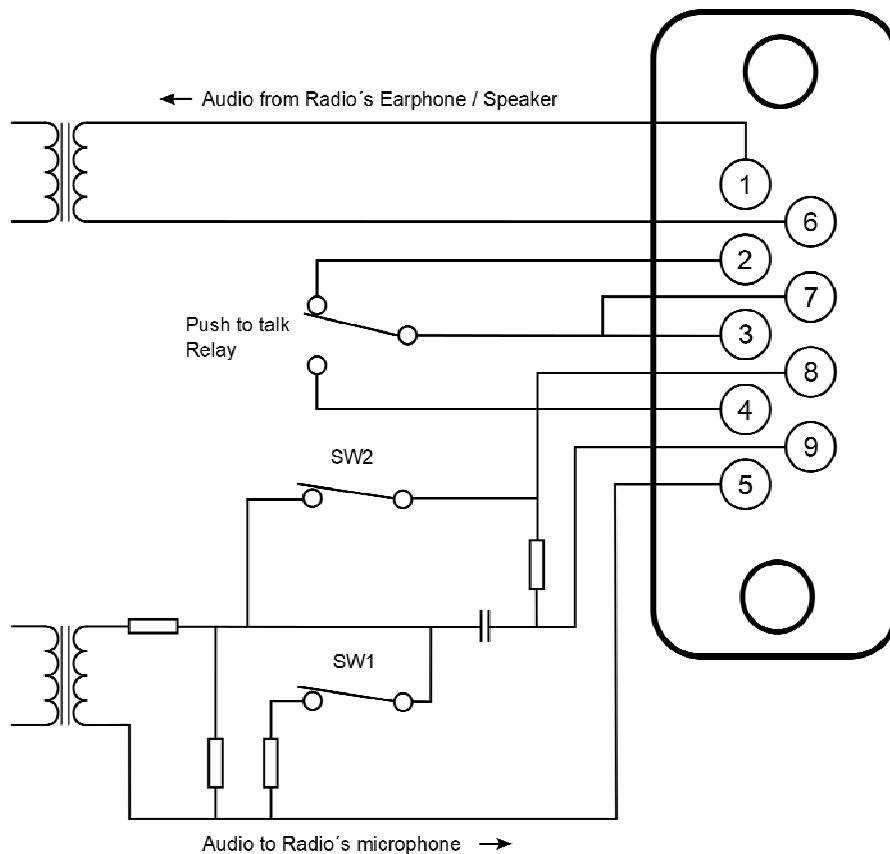
IP: xxx.xxx.xxx.xx → RDX の IP アドレス

Mac: xx:xx:xx:xx:xx:xx → RDX の Mac アドレス

Reset All Settings → すべての、IP、オーディオ、ユーザー、チャンネルの設定をリセットします。ペアリングは影響を受けず、設定ファイルも変更されません。

Connecting a radio to the RDX (RDX とトランシーバーとの接続)

Green-GO RDX はさまざまな双方向トランシーバーに接続することができます。
以下の図を参照し使用するトランシーバーのタイプに合わせてコネクタケーブルを作成できます。
ケーブルは RDX の背面にある D-SUB9 コネクタに接続します。
RDX は実質的にあらゆる双方向トランシーバーと正確なレベルマッチングを可能にします。
Green-GO ネットワーク上の音声は RDX によって検出されると、プッシュトゥトーク(Push-To-Talk)リレーが作動してトランシーバーへのキーイングを行います。適切なコネクタケーブル
(詳細は以下) とリレーを使用することで、トランシーバーへからの送信が確実に実行されます。
以下の図は、Green-GO RDX を無線基地局にリンクするための D-SUB9 コネクタ接続を示しています。



Cable connections (ケーブル 接続)

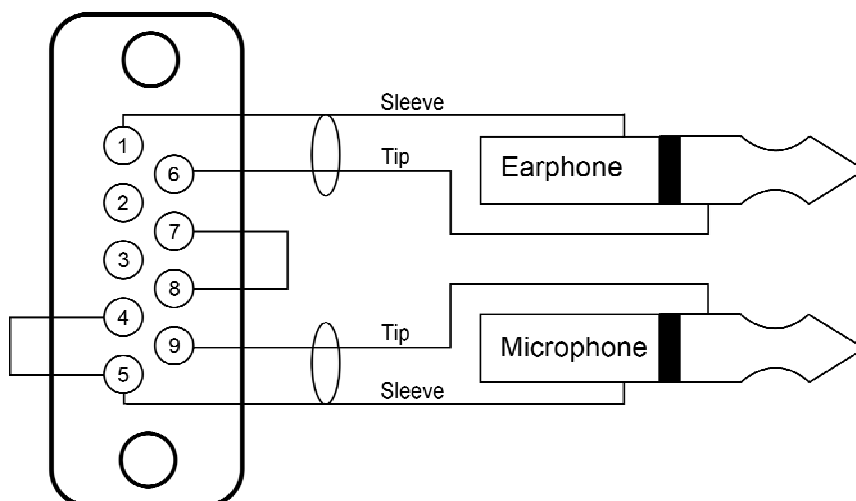
トランシーバー (Walkie-Talkie) を RDX に接続するにはコネクタケーブルが必要です。ケーブルは単線シールド線で構成し信号の損失を防ぐために 1.5m 以下にします。無線基地局を (例えば、外部マイクまたはイヤホンから得られる音声などを) コネクタケーブルに取り付けることによって RDX にリンクすることができます。以下の図はケーブルの D-SUB9 コネクタへの接続を示しています。

ケーブルを接続したら、マイクの種類とレベルを設定する必要があります。RDX の内部ジャンパーにより特定のマイクタイプに対応するように (以下の 3 つの図に従って) 設定することができます。

無線の種類ごとに送信機のキーイングの方法が異なるため、使用する特定の無線のキーを正しく設定するのは難しい場合があります。どんなタイプの外部マイクを使用しているかを知っておくと、正しいジャンパー設定とコネクタ配線を確認するのに役立ちます。以下の図は、最も一般的に使用される設定を示しています。

マイクを短絡するリレー

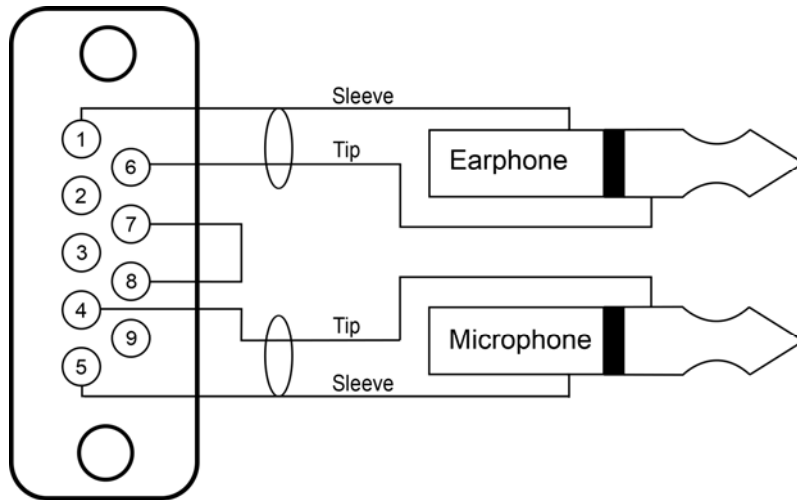
(例 : Motorola Radius、GP300、SP-50、Sport 7X)



ジャンパー設定

SW2	off	(マイク用の DC パス)
SW1	on	(アッテネーター)

マイクと直列 リレー

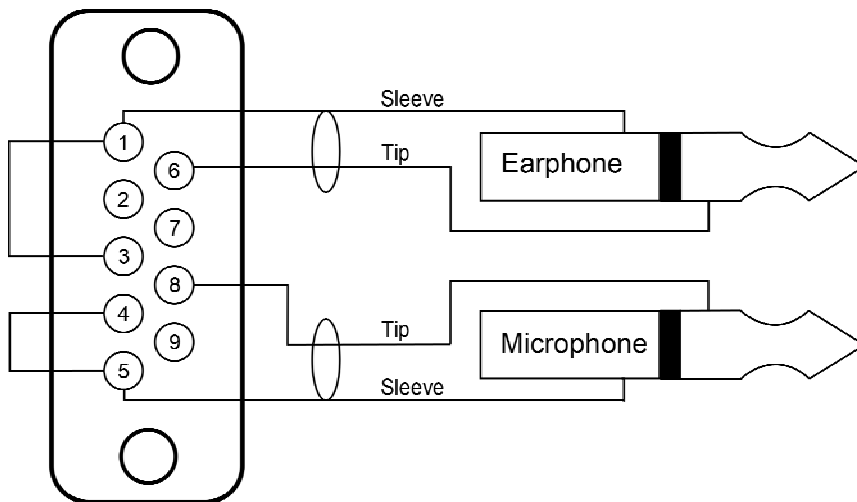


ジャンパー設定

SW2 on (マイク用の DC パス)
 SW1 on (アッテネーター)

マイクのスリーブとイヤホンのスリーブを交差するリレー

(例 : Uniden SPH, Motorola Radius P-50)



ジャンパー設定

SW2 on (マイク用の DC パス)
 SW1 on (アッテネーター)

General safety instructions (安全の手引き)

ご使用になられる前にユーザーマニュアルと安全の手引きをお読みください。
安全と操作上の指示事項に関して遵守してお使いください。

→ Cleaning (クリーニング)

機器をクリーニングする前は接続されている全ての電源ケーブルと信号ケーブルを外します。
乾いた布で拭いてください。機器に液体をかけたりスプレーしたりしないでください。

→ Usage (使用法)

- 水や湿気のあるところで使用しないでください。 - 換気用の開口部を塞がないでください。換気用開口部は、機器内の空気の流れを確保し過熱から保護するために必要です。 - 製造元の指示に従って設置してください。 - 機器の通気口に物を入れないでください。活電部に物が触れたりショートしたりする可能性があります。感電や火災の原因となります。 - ラジエーター、ストーブ、その他熱を発生する（アンプなど）機器の近くに設置しないでください。 - 雷発生時や長期間使用しないときは電源を外してください。不安定な場所には置かないでください。

→ Service (サービス)

修理が必要な場合は、有資格のサービス担当者に依頼してください。電源コードやプラグが損傷した場合、機器に液体がこぼれた場合、何かを落とした場合、雨や湿気にさらされ通常どおりに動作しなくなった場合、本体が落下した場合、など機器が損傷を受けた場合はサービスを受ける必要があります。

以上のような状況が発生した場合は即座に電源プラグを外して販売店またはテクニカルサポートに連絡してください。

→ WARNING (警告)

火災や感電の危険を避けるために、本機を雨や湿気にさらさないでください

Declaration of Conformity (EU 適合宣言書)

We,

Manufacturers name: ELC lighting b.v.

Manufacturers address: Weerijds 8
5422 WV Gemert
the Netherlands

Herewith take the full responsibility to confirm that the product

Product Category: Communication equipment

Name of product: GGO-RDX

Which refer to this declaration are manufactured in the Netherlands and complies with the following product specifications and harmonized standards:

Safety: LVD (Low Voltage Directive) 2014/35/EU, EN62368-1

EMC: 2014/30/EG, EN55032

ROHS (II): 2011/65/EU

With the presumption that the equipment is used and connected according to the manual, supplied with the equipment. All signal input- and output connections must be shielded and the shielding must be connected to the ground of the corresponding plug.

Gemert, February 16, 2018

ing. Joost van Eenbergen

